

2 将来像実現のための基本理念

(1) “とちぎ”づくりの基本的方向

これまでの近代工業社会では、大きな組織が効率性を求めて行動することが有利とされ、我が国でも、この枠組みの中で高度経済成長を実現してきた。しかし現在、このシステムの中に、無責任ともたれ合い、そして活力の低下といった制度疲労が目立ってきている。

また、経済的な豊かさを追い求める過程で、人間関係が希薄化し、私たち日本人から、他者を思いやり、多様な価値観を認め協力し合うといった「心」が失われつつあると懸念されている。

私たちがこれから向かおうとしている「知恵の時代」は、多彩な「個」が、ある時は協力しつつ、ある時は切磋琢磨(せっさたくま)しながら、様々なチャレンジによって新たな道を切り拓いていく社会である。

しかし一方で、機会均等の過度な競争がもたらす優勝劣敗社会は、身勝手やエゴが暴走する不毛で危険な社会をつくりかねないことも危ぐされている。

同時に、さらに進展していく高齢社会では、地域の中で互いに助け合い、喜びを分かち合っていくことが不可欠になる。また、私たちをはぐくんでいる環境の容量の限界が明らかになってきた今、私たちの暮らしそのものを見つめ直し、環境と共生できるものとしていくことが求められている。

そこで、これからの時代に対応した社会を築いていくためには、まず、私たち自身や企業、さらには地域が、それぞれの持つ個性や能力を最大限に発揮して自立できるよう、自らをみがいていかなければならない。

また、社会を構成する個人や企業、さらには地域全体が、豊かな心と公共心を持って、それぞれ協力・補完し合いながら、人と人、人と社会、人と自然との間に相互の信頼や共生、共助の関係を積み重ね、弱きを助け、挑戦者に勇気を与える「*ヒューマンセーフティネット」の絆をつないでいかなければならない。

そして、自立した主体と「ヒューマンセーフティネット」の基盤の上に立って、革新と創造に挑戦し、全国に、そして世界に向けて新たな風をおこしていかなければならない。

私たちは、このような取組を積み重ねながら、将来にわたって持続可能な地域経済と環境共生社会を、皆が勇気を持って夢に挑戦できる社会を、そして弱い立場の人たちやハンディを負った人たち、厳しさに立ちすくみ倒れそうな人たちをみんなで支え守っていける、豊かさとたくましさ、そしてやさしさが共存する、人間中心の協力社会を築いていかなければならない。

【ヒューマンセーフティネット】人々が織りなす安全・安心のネットワーク。本書での造語。

(2) 将来像実現のための基本理念

私たちがこれからの“とちぎ”づくりを進めていく際には、時代の転換期にあるということを念頭において、しっかりとした基本理念を持ち、人と社会、自然をめぐるすべての「あり方」を問い直していかなければならない。様々な転換が進み、価値観も変化しつつある「いま」という時代は、新たな創造の可能性を拓く大きな歴史的チャンスでもある。

このため、あらためて“とちぎ”の原点を再確認し、『活力と美しさに満ちた郷土“とちぎ”』の実現に取り組んでいくことが必要である。

ここで、私たちは、“とちぎ”づくりの基本的方向に向けて、
自立と自助、更に互助による幸福の追求である

「分度推譲」

を郷土づくりの基本理念として、一人ひとりの知恵と愛と勇気を合わせて、私たちの栃木県をさらに希望と誇りの持てる郷土として発展させていく。

そして、この基本理念に基づく郷土づくりを、「分度推譲立県」として推進していく。

(3) “とちぎ”づくりの行動指針

これから訪れる新たな時代に、豊かさとたくましさ、そしてやさしさが共存できる“とちぎ”を築き、“とちぎ”にかかわるすべての人々が、生き生きと躍動していく社会をつくるためには、個人や企業、地域など、社会を構成するすべての担い手が、

第一に、自らをみがき、自立・自助の礎を築くこと

1 “自”

(みずから)をみがく

～いまから明日へ、自立・自助の礎を築くために～

第二に、幸せの絆をつなぐ互助・協調のネットを織りなしていくこと

2 “絆”

(きずな)をつなぐ

～わたしからみんなへ、互助・協調のネットを織りなすために～

第三に、自立・自助と互助・協調の基盤の上に、さらなる夢と希望に挑戦し、地域に、世界に、新たな風をおこしていくこと

3 “風”

(かぜ)をおこす

～ここから世界へ、さらなる夢と希望を実現するために～

の三点を常に指針として行動していくことが必要である。

私たちは、この3つをこれからの“とちぎ”づくりの行動指針として、「分度推譲立県」を推進していく。